

## 三重花菖蒲協会による展示会

三重県津市 神山 康夫

三重県は伊勢系花菖蒲の発祥地であり、江戸時代後期から戦前戦後を通して多くの花菖蒲愛好家が活躍されてきました。三重花菖蒲協会はそれら先人たちが築かれてきた伝統を受け継いで、現在も十数名の会員によって多数の花菖蒲が育てられています。開花期には伊勢神宮および三重県総合文化センターに毎年出展し、一般市民の方々から好評を得ています。伊勢神宮には花菖蒲以外にも菊や皐月盆栽などを奉納する「国華会」があり、伊勢市や松阪市および津市など約60名の会員が所属していますが、三重花菖蒲協会の大半の会員は国華会にも入会し、一人当たり数鉢以上の花菖蒲を出展しています。全国から伊勢へ来られる旅行者は年間500万人とも言われ、国華会の展示品を通して伊勢の園芸文化を理解して貰うのに貢献しています。また伊勢神

宮・外宮の勾玉池には花菖蒲園があり、江戸・肥後・伊勢型など様々な品種が見られます。三重県総合文化センターでは、6月初旬に開催される県主催の「みえフレンテまつり」に合わせて花菖蒲の展示と苗の即売を行っています。このイベントには数百人の訪問者があり、子供から年配者まで様々な人たちに花菖蒲を紹介する絶好の機会ともなっています。

私自身は、伊勢三花と呼ばれる伊勢撫子・伊勢菊・伊勢花菖蒲を栽培保存しています。このうち花菖蒲については戦前までに育成された「伊勢系古花」の約55品種を中心にして鉢栽培を行い、上述の展示会にはそれぞれ20鉢ほどを出展しています。我が家で現在栽培保存中の伊勢タイプ、肥後や江戸タイプおよび長井タイプの品種も数えるとおよそ200品種になります。開花後から梅雨明けまでに株分け作業を終わらせるのが体力的に難しくなりつつあり、今後は如何にして省力栽培するかが個人的な課題となってきました。

(三重花菖蒲協会会長、国華会理事)

